

国語科学習指導案

指導者 浜岡 恵子

日時 平成29年11月18日（土） 第3校時（13:15～14:05）
年組 中学校第1学年1組 計40名（男子20名，女子20名）
場所 中学校第1学年1組教室
単元 『詩人の時間』を体験する ～詩の創作を楽しもう～
単元について

『詩人の時間』を体験するは山元，中井の実践である。この実践を，「豊かなことばのつかい手」を育成する単元の一つとして，今年度中学1年から3年まで全学年に設定した。詩を教材とした指導は，小学校及び中学校の各学年において必ず行われている。詩は，発達段階に応じて，言葉遊びとして響きやリズムを楽しんだり，自分の感じたことを率直に表現したりするのに適した形式である。しかし，「書くこと」の学習においては，学年が上がるにつれて，報告文や意見文等論説的な文章の学習が優先され，授業の中で詩を創作する機会は多くない。その一因として「学校現場において実践経験の少ない『詩の創作』に関しては，どうやって授業を作るのかという指導の問題以前に，『詩を創作すること』そのもののイメージを指導者が明確に持てない」（山元，中井）ことが挙げられるだろう。その結果，詩の授業は鑑賞を中心としたものになりがちである。しかし，論説的な文章のように構成や内容に型があるものに比べて，詩にはそういった制約がない。その分だけ表現するにあたって，自分の言葉と向き合わざるを得ない場面を作り出すことができる単元と言える。

本学級の生徒に読書傾向を調査したところ，小説・物語という文学作品を読むことが好きだと答えた生徒は，40人中28人であった。しかし，詩集を読むのが好きだと答えた生徒は2人しかおらず，読まない理由として，「おもしろいかどうかわからないから」，「特に読みたいと思う本がないから」というものであった。ここから，生徒自身が詩に触れようとする機会は少なく，特別なジャンルとして距離を感じていることがわかった。J-POP等，生徒の日常には詩があふれているにもかかわらず，詩人の優れた言葉選びや卓越した表現に触れる機会が増えることでかえって，自分で詩を書かなくても，さまざまな場面で感じる気持ちや想像が満たされた感覚になっている実態もある。

そこで今回，特に中学1年の学習では，次の二点に重点をおいた指導を行う。一つ目は，詩の創作を通して，詩に親しみ，自分を表現する方法が増えたことを実感できるようにすることである。二つ目は，発想を広げていくための言葉を選ぶ作業を通して，自分の語彙を見つめ直すことができるようにすることである。さまざまな「書くこと」の学習を積み重ねながら，生徒自身が「豊かなことば」を獲得することで，学びを豊かにする指導を行う。

指導目標

1. 詩の創作を通して，詩に親しむことができるようにする。
2. 発想を広げていくための言葉を選ぶ作業を通して，自分の表現を見つめ直すことができるようにする。

指導計画（全5時間）

	学習活動	指導の手立て
第1時	○良い「詩」とはどのような詩か，個人のもつイメージを明確にする。 ○自分の想像の世界を広げる	○これまでの学習体験を想起させる。 ○「詩」とは？「詩人」とは？というイメージをふくらませ，自分の「め

	<ul style="list-style-type: none"> ・詩人がもつ世界を表現するさまざまな言葉 ・効果的な表現技法 ・新たな気づき 	<ul style="list-style-type: none"> 「めざす姿」を明確にできるようにする。 ○発想が広がる「詩」を例示する。
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ○詩のテーマにするメモを1枚作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・1枚目・・・「形が変わらないもの」 ○メモをボウルに集め、全員が1枚ずつ引く。 ○引いた言葉を詩のテーマとして、マインドマップを書く。 ○マインドマップをもとに詩を書く（下書き）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○創作手順を理解させる。 ○マインドマップを書く時間をしっかり確保する。
第3時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○詩のテーマにするメモを1枚作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・2枚目・・・「形が変わるもの」 ○メモをボウルに集め、全員が1枚ずつ引く。 ○今回引いた言葉を前回の言葉と合わせ『2枚目のテーマ』の『1枚目のテーマ』を詩の題名として、マインドマップを書く。 ○マインドマップをもとに詩を書く（下書き）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第2時よりも、イメージするのは難しいと予想されるので、マインドマップを書く時間をしっかり確保する。
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○創作した詩（1枚目と2枚目）をグループで、読み合う。 ○読み上げられた詩について、1枚目と2枚目を比べ、どれだけ想像の世界が広がっているか一人ずつコメントをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4人グループとする。 ○コメントをする際は「大切な友人」となるよう心がけ、良いところを見つけるよう伝える。 ○固定概念に縛られず、発想がどんどん広がっているかを評価する。
第5時	<ul style="list-style-type: none"> ○詩を仕上げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループでのコメントをもとに推敲し、清書する。 ○創作について振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・1枚目と2枚目の創作について違いがあったか。 ・自分のイメージをもてたか。 ・表現しようと思った言葉が見つけれられたか。 ・効果的に表現技法を用いることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のはじめに確認した「めざす姿」にどのくらい近づけたかを振り返らせる。

本時の目標

与えられたテーマについてしっかりと考えて言葉を広げることと、広げた言葉の中から詩の言葉として絞ることの両方を行う中で、自分が表現したいことのイメージをもつことができる。

学びを豊かにするための手立て

マインドマップと付箋を使うことにより、自分のイメージを俯瞰できるようにすることが第一の手立てである。また、本単元の学習では、イメージの広がり注目してグループで相互評価し、創作した詩の価値や言葉の意味を生徒自身で意識できるようにすることが第二の手立てである。

学習の展開

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点（◆評価）
<p>〔全 体〕10分</p> <p>1. 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 『詩人の時間』を体験する ～詩の創作を楽しもう～ </div> <p>2. 詩のテーマにするメモを作る。 ・2枚目…「形が変わるもの」 「水」、「木」、「気持ち」、「季節」…</p> <p>3. メモをボウルに集め、1枚ずつ引く。</p>	<p>○1作目の創作について振り返り、本時の課題を確認する。</p> <p>○本時では2作目の創作を行うこと、自分のイメージをマインドマップにして、さらに付箋に書き出すところまでめざすことを伝える。</p> <p>○「形が変わるもの」についてカードを書かせる。</p> <p>○「粘土」「砂」「風」等例示し、ここであまり悩まないように、例示したものを使っても良いこととする。</p> <p>○自分の書いたカードを引いた場合も、他のカードと交換しない。引いたカードとの出会いが大切であることを、あらかじめ伝えておく。</p>
<p>〔個 人〕30分</p> <p>4. 今回引いた言葉を前回の言葉と合わせ、「『形が変わるもの』の『形が変わらないもの』」を詩の題名として創作する。</p> <p>5. マインドマップを書く。</p> <p>6. マインドマップをもとに詩の形に整えていく。</p>	<p>○順序は変えないよう指示する。</p> <p>○セントラルイメージから浮かんだ言葉はどんどん書くように、次のような指示をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消しゴムは使わないようにしましょう。 ・手が止まった時は、ブランチ（枝）を先に伸ばしてみよう。 ・1作目で描いたマインドマップからつなげてみるのもいいね。 <p>○マインドマップから使いたい言葉を付箋に書きぬき、付箋の並べ方を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選ぶ時に声に出してみよう。 ・できるだけ意味の遠い言葉を付箋に書いてみよう。 <p>○付箋と付箋をどのようにつなぐか考えさせる。</p> <p>○今日は詩の形になっていなくても良い。</p>
<p>〔全 体〕10分</p> <p>7. 本時の学習を振り返る。 ・イメージの広がりについて自己評価する。</p>	<p>◆自分のイメージを広げることができたか。（マインドマップをもとに自己評価させる。）</p> <p>○次時に詩を完成させ、グループ交流することを予告する。</p>

参考文献

山元隆春, 中井悠加 『詩人の時間』を体験する (日本国語教育学会編 『月刊国語教育研究』. 2013.)